京城新報

人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久禅一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜録

●南山の國師堂

野崎 小蟹

片方の組は何うもらうと私は覗くやうにして一組の中に交じる如く近き覗察した、後者は病氣平癒を祈り貰ふらしかつた、祈りマギツ面に一錢なり二錢なりを、一組の後者が出し合つてミコの手に渡した。

大略樣子が解せられたので私は友と國師堂を後にして南山の細路を總督府のある方へと下りたのである。

山腹まで來ると雨は大粒に降つて來た、空を仰ぐと雲切れが見ゐて、其所に靑色があるので安堵した、雨は多くは降らなかつた、麓では茸を取つて居る日本人の一組があつた、其は三人の小供を連れた車夫であつた、籠には十個許りの茸が得られてゐる、初茸と云ふものらしい。

私は南山を下りて總督府の樓上に人蔘の講話をして居なさる、三宅とか云ふ博士の顏を、日露戰勝紀念碑の傍で見下した。

總督府の役人が時々私を見ると思つたら、私が氣附かざる間に、四人と云ふ茶屋女らしいのが、丁稚に連れられて石段を登つて來て、私の後に立つて居たのであつた。

樓上の役人と其下の部屋に机上の帳にペンを廢して居た人とが、笑みを含んで此方を見る。私は氣まりが惡るいやうに感じて、寨平の逸民の一人と胸に念ひながら、石段を下りて本願寺の彼岸會へと足を向けた。

本願寺には多數の老若男女が本堂に會して居た、私も席末を汚して坊さんの出て來るを待つて居た、聽て頭の毛の毬栗見たやうに生ゐた人が、黑衣を纏ふて壇上に現はれて坐された。

一國丁寧に挨拶されて、次ぎに坊さんが喋り出されるのである。

佛は慈悲に富んで居なさる、六字の難有さは信念を籠めて唱へなされとの事に、幾度も繰り返へされる其度に老ひたる女が南無阿彌陀佛と唱へ出すのであつた。私は直に寺内を出た。

耶蘇の信徒がアーメンと云ふのに違はなかつた、思ふに耶蘇の方は多少學識のあるものが信徒に居る、本願寺信徒も學識がない方でもあるまいが、聞く人にも說く人にも私には宗敎と云ふものが如何なるもの也やと、尋ねたら些ッゴックだらうと考へた、終りに南山の國師堂のミコも神に使へる者であらう歟、佛に使へる者であらう歟、どちらも一ッだらうと獨り定めて、世の中はれかしいと感じた。

●社會の賊

在太田 戈水投

△商品に一種賤値なる者ある社會の一弊害なり、某所の妻君下婢に買物せしむる毎に命じて曰く『値切りて若し一厘も負けぬ時は何んでも少し添ねて貰つて來い』と下婢先生頗る當惑常に是れを知人に漏らす然るに或る時其家に死者あり妻君下女に命じて位牌を買はしむ下婢葬具屋に至り位牌を値切る、位牌屋の主人驚いて曰く位牌を値切る人は始めてなりと、下婢即ち妻君の命を傳ふ、主人曰く、宜しい其れでは此の小さいのを添ねて上げませふと即ち二個を携へ歸る、妻君是れを見て大いに驚いて曰く、緣機の惡るい何故二つも持つて來るかと、下女即ち平生妻君の命ずる所を言ふ爾來妻君値切る事を言はずと斯る妻君の如きは一種社會の賊と言ふべし此の種の人有りて賣買者相互の信用を害する事甚だし

●慶尚南北道農業觀察の雜感(三)

揖斐生寄

◎郡書記か上見ぬ鷲の羽振強く人民を虐け官有物建物に住居し舍宅料を取り官有の樹木を採取して私用に供し醜態を演出して耻ちとせず裸体白晝公道を往來するものあり道路側目『ナップンサラミ』と嘆息せしむるは内地旅行に於て數々見聞せし所なり

◎○○の不法行爲を發見するも之れを懲戒する能はず○○は内地人書記を輕視し不法をなすあるに於て人民は新政謳歌すると言ふ事は前途遼遠なるべし

◎内地人の鮮人に對する擧動なぞ犬馬の取扱ひにて金貸なぞ返濟期限を後れは直ちに其土地を强奪す裁判所は只に附近の一少部分にて訴訟具に供するに過ぎず内地に旅行せば其眞價を看破するは容易なり

◎以上の事項は余を農業經營より失望せしめて爰に歸國の途に付くにより雜感を審して贈るなり

外事一束

△英國の紡績職工に勞働組合員外の者を雇入たる故同盟罷業せんと之に對しマンチエスター屋主等同業工場悉く閉鎖して對抗せんと兩者爭鬪頗出

△慶邸 病と稱し朝せず辭意堅し那桐臨時衆議し澤公更に首相に親任されん

△資政院第二回の開期近日なり未だ開かれず既に解散說出づ浮言流說不過

△トリポリ全然占領され伊土交涉近く始まらん然し戰報混雜し眞僞不可判

△タフト自巳內閣のトラスト征伐を辯護し其檢擧は不可賀も辭矯むべしと

◎新刊紹介

◉社會政策 板垣伯の『皇室の尊嚴』『娛樂機關の必要』『盲人の按摩專業』外交の名士の論評何れも堂々たるものなり(一部十五錢東京芝公園社會政策社)

◉信友 本願としての『異安心の源』『初見』『驕慢』大に讀むべし其の他の記事何れも精神修養に利益あり(一部六錢京城南山町本願寺內信友會)

◉日本青年 青年の元氣養成上必讀すべき雜誌なり井上文學博士の『異の勇氣を養へ』大隈伯の『唯猛進あるのみ』三宅博士の『成効とは何ぞ』等は再讀の價値あり(一部十五錢東京本鄉區森川町大日本靑年中學會)

◉東洋時報 稻田周之助氏の『新領土に於ける敎育政策』は出色の文字なり關野博士の『朝鮮遺蹟一斑』又大いに讀むべしとなす(一部五十錢東京麴町山下町東洋協會)

◉滿洲の實業 寄書、本欄、雜纂等趣味多面に亘れり主張『殖富の背景』外一項說の可否は兎も角力ある文字なり(一部二十五錢京城大和町滿洲の實業協會)

梁川庄八

小金井蘆洲演

第七回

庄『れ默なさい周防殿……御身兵士の功名を主君に執成し下さるゝ老臣の職に有ながら、拙者共の功名を申達に及ばぬとは心得難し、偖は拙者が分捕せし上杉家の旗六本も、按する所御身の功名にでもせられたか、老臣が兵士の働きを盗むと云は何事ぞ、伊達家の老臣藻庭周防は兵士の功を盗む大賊なり、又我に向つて內訴とは何事なるぞ、御政治の事につき殿の御前に申上るとか若くば書面に認めて差上るとか致せしを內訴とや云はん、酒宴の席に於て、御家の殿の御尋ねに答へたればとて、成規に問はるゝ所更になし、然るに聊かなる戰塲の功名云々と云ふからは戰目付の角の目小太郎渡邊善藏の兩人をも欺き、陣中日記を取消させたに相違ない、若し然らば軍監戰目付は名あつて實なし……斯樣な事を致しても老臣の役目相立つ者でござるか、願はくは戰目付角の目渡邊兩人を此席へ御召下され、逐一御尋ね願ひ奉りまする』と席を敲いて述立ました、其面色宛然獅子の怒れる如く、更に臆する氣色なし、一座白らけ渡つて居並ぶ面々、如何に此返答をなすやらんと、兩手に汗を握つて藻庭の方に眼を注ぐ、周防は顏色忽ち土の如くに變じ、少時言葉もなく下俯向いて居りましたが、ヤヽ有て兩手を支へ 周『恐ながら言上仕りまする、私君の御幼沖の御時より仕へ奉り、聊かの御奉公振致に及んで、辱なくも老臣の列に加はり、兵士の上座に座せる身分に御取立を蒙りましたを、今日君の御前に於て、梁川庄兵衛の爲に賊と呼ばれましては、君の御德を削り御家の御名譽を瑕けるに等しく、老臣の職を汚す次第にて甚だ恐入りまする故、今日限り御役御免を願ひまする、是より陣屋に引籠り老を養ひたく存じ奉りまする』と姿れ返て申述べました、政宗侯は双方の云事を聞て居られましたが、藻庭周防は藤五郎と云た幼時からの輔佐役で、當家第一の古老でございます、よもや周防が庄兵衛の功を沫殺したとは思召さない、之れは他に理由があるに違いない、老臣の面目を失はせては大事である、庄兵衛の申立も事理明白だが、一時叱り置て後で當時の事柄を審々取調べをして、庄兵衛の功が云通りであつたら、改めて恩賞の沙汰に及ばうと深慮遊ばしましたから、政宗『庄兵衛只今予の前をも憚からず、老臣周防に對して賊呼はわり不埒なり、當家へ對して不禮であろう、目通り叶はぬ、速かに庄兵衛を引下げよ』と仰しやいましたが、庄兵衛に於ては身に一點の曇りがないのですから、頑として更に御前を退く容子がない、尙も何邪か申上やうと云ふ有樣ですから、同列の面々心配として、頻りに慰めなだめて引下げやうと急き立てますが聞入れぬ、庄『假令五体微塵に相成る共此埒の明かぬ内は退き申さん』と云立るを大勢寄て漸く引下げた、其內に酒宴も果てゝ銘々下城をする、口々に兎角批評を仕乍ら歸宅致しました、梁川庄兵衛は我屋敷へ歸ると憤怒の餘り、酒を飲んで夜を徹したすると、翌十四日俄然君前を憚らず不臣之段不屆なり、と有て蟄居閉門を命ぜられた、是は賞罰を明かに仕樣と云政宗公の深慮なのだ、庄兵衛は强勇だけに聊か短慮です、主君の深慮を讀むの明が薄いから、愈々憫獄が募る計りで快々として樂しみません、戰塲に於ける隨一の功名は、有耶無耶の内に搔き消され、聊かの落度は斯くの如く嚴責に及ばれ、實に無念やる方なく斯る目も鼻も明かぬ主君に仕へて何かせん、我は如何なれば斯る不運の生であろう、面白からぬ世の中に生きて居る甲斐はない、寧ろ潔よく切腹して相果てやう、と決心した、妻君は十年前に沒せられて、今年十五歲になる庄太郎と云男子が御座いますが、性質っ虛弱で有ます、仙臺の城下榴が岡飛梅天神の神職和田但馬繁明と云人がある、元葛西陸奥守の臣で主家滅亡の後ちは二君に仕へず神職になつた人で庄兵衛とは兄弟同樣の交誼を結んだ間柄、人に敎へる藝術が六道有たと云、文武に通達して一個の偉人です、恰度竹中半兵衛のやうな人です、此但馬に頼んで十一歲の時から庄太郎を內弟子に仕てある、庄太郎虛弱ではあるが學びの道にかけては餘念なく、又但馬先生も義理のある間柄ですから頻りに骨を折て敎授する、庄兵衛も心懸りは此一子の事が冥路の障りだ。



外國特電

伊土戰爭問題

▲土國列國に哀訴 土耳古は列國に對し伊太利トリポリに軍隊を上陸せしめたる爲め國際上局面一變せる旨を說き列國は此際伊國の利益尊重と土耳古の權利保護を基礎とし速かに調停せられ度しと哀訴せり（倫敦發）

▲列國の警告 列國は土耳古に對し伊國民の國外放逐等を爲さば伊國は戰爭をトリポリに極限せんとする主義を放棄すべしと警告したり（倫敦發）

東京電報

▲施政方針決す 西園寺首相邸に政友會領袖密議の結果來年度の施政方針は消極的方針を採るに決せり

▲佛獨協議行悩 佛獨協議は佛國の公果讓與に反對ある爲め行悩の姿にあり

▲葡萄國王黨大敗 葡萄牙國の王黨は共和軍の爲め大敗せしも西班牙より新なる援軍を得たり

▲陸軍側計上 海軍擴張案提出に對し陸軍側も默視する能はず其の成否如何を問はず來年度豫算に朝鮮二個師團常設費四千六百萬圓（七年繼續）を計上せりと

▲露國海軍擴張 露國政府は黒海艦隊の擴張を爲さんとするの計畫ありて此程に至り一億二百万留を支出し新にドレッドノート型戰艦三隻大型水雷艇九隻大型潜航艇六隻を建造するに確定したり

▲潜航艇配備 英國海軍にては八隻乃至十二隻編成の潜航艇隊を本國海面に配置し居れるが更に香港シンガポール、コロンボアデンマルタジブラルタルの各海軍根據地へも六隻編成の潜航艇を配置するに決し夫れ〳〵其編成を爲す筈なり

▲施藥救療計劃 二月十一日施藥救療に關する大詔渙發御內帑御下賜ありたる以來國民一般に聖旨を扶翼し濟世救民の施設を計畫する者多く內務省の調査に依れば二月十一日以降公益法人の計畫せる者二十個の多きに及べりと云ふ

雜報

●豫算大削減方針

四十五年度に於ける各省豫算概算書は數日中に全部提出濟となるは既報の如くなるが明年度歳入豫算も大部査定を終了せり明年度の自然增收は電信電話收入に於て多少の增額と增減なく前年即ち四十二年の剩余金繰越に決したるは二千萬圓乃至三千萬圓に出でざる可く是を本年度豫算に三千万圓の剩余金を計上したるに比すれば明年度は多少の減額となるべし尤も本年度に於ては水害復舊費の經費ありたるに反し明年度に於ては斯る費目を有せず多少歳計に餘裕を生ずるも明年度よりは九ケ年計畫に歳出の定めあれば豫定額より尚增加あるを免れず然れども經常費は本年度に比し增額は免かれざるべし而して四十三年度剩余金中に又是を加へざる可からざる事となるを以て明年度の新事業は大削減を加へざる可し從て陸海軍の擴張は勿論議院建築大博覽會費等の不急事業に是を見合す事となり其他新事業は査定の結果夫れ夫れ斧鉞を加へらるゝに至るべし（東京特信）

●安奉開通祝賀

安奉線改築工事も既報の如く愈々本月中を以て終了すべきに付き滿鐵は不取敢來る十一月三日をトし列車の初運轉を爲し翌四日開通式を執行する筈なるが今回は大袈裟の擧式を廢し頗る質素を旨とし單に會社內部並に關係請負業者との聯合祝賀位に留め別に記念メタルを製し請負者及び同社技師以下の各職員に贈與する筈なりと云ふ右に就き目下請負業者側にても祝意を表する爲め昨今寄り〳〵協議中なるが或は何等かの記念品を關係各職員に贈ることゝなるやも知れずと

●水電調査會議

十一日午前十時半より通信局に於て岡本工務課長以下松浦、山岡の兩技師其他係員數名會議室に集合今後の水力電氣調査に關し協議する處ありたり

●內地米と鮮米（比較）

既報の如く朝鮮米を受渡代用米となすことに就き京城日本人商業會議所聯合會にては昨今當局に向つて運動中なるが今參考迄に內地米と朝鮮米との品質等級比較を揭ぐれば左の如し

一等二級朝鮮（馬山米、木浦米、仁川米）內地（兵庫米、岡山米、群馬米、埼玉米）
二等一級朝鮮（鎮南浦米、釜山米、木浦米、仁川米）內地（兵庫米、岡山米、廣島米、熊本米、山口米、鳥取米、德島米、鹿兒島米、滋賀米）
二等二級朝鮮（馬山米、釜山米、仁川米）內地（兵庫米、岡山米、廣島米、山口米、鳥取米、香川米、福島米、大分米、宮崎米、三重米、千葉米）
三等一級朝鮮（群山米、釜山米）內地（兵庫米、岡山米、山口米、鳥取米、愛媛米、福島米、大分米、福岡米、鹿兒島米、富山米、新潟米、青森米、福島米、栃木米）
四等一級朝鮮（鎮南浦米）內地（島根米、愛媛米、大分米、福岡米、宮崎米、和歌山米、石川米、秋田、米青森米）

尚等數は五等迄級數は四級迄あるが右の比較を以てすれば朝鮮米は優に受渡代用米として格付表中に加はるべき資格を有すべきなり

●朝鮮農業と副業

朝鮮の氣候風土の關係上二毛作の耕地比較的僅少なるを以て多くの農民は副業の必要を感じ當局にても奬勵しつゝあるが今之れが副業の比較的盛んなる地方及び內地人鮮人の區別を揭ぐれば左の如し

△忠清南道 內地人の農民は蔬菜及果樹の栽培養鷄養蠶養豚及び繩の製造に從事し鮮人は重もに養鷄養豚及草鞋等の製造に過ぎざるも地方によりては繩叺莚布織等の業に從事するものあり

△京畿道 內地人農民は繩蓆叺等の製造に從事し鮮人は草鞋屋根葉編及蓆繩叺等の製造をなし居るも多くは自家用に止まれり

△平安北道 內地人農民は養鷄養蠶製糸養蜂等に從事し居り鮮人も略同樣なり

△全羅南道 內地人農民は煙草蔬菜果樹の栽培及び繩莚の製造をなし鮮人は養蠶養鷄養豚及び竹細工織物等をなしをれり

右副業の收益は一ヶ年凡そ二十圓乃至三十圓內外なるが他の各道も前記の四道と大同小異なりといふ

●咸鏡道の牛疫全滅

咸鏡道地方に於ける牛疫發生以來北鮮牛の聲價を傷くる事甚しきより其の筋にては之れが撲滅に腐心し曩に原島技師出張各該地に於て講話をなしたる結果昨今漸く疫病の全滅を見るに至れりと云ふ

●黄海 試驗的鯖漁

鮮海水產組合鎮南浦支部に於ては日本形漁船一隻に日鮮人六名を乘組ましめ夢金浦近海に於て一本釣及張繩釣の方法に依り客月二十五日夜より同二十七日夜迄鯖漁の試驗を試み今後一週間折を見て又試驗釣を行ふ由

●總督邸の午餐會

既記の如く十一日正午寺內總督には千阪津輕艦長以下乘組將校五名並に候補生（日清）四名を官邸に招待し午餐の饗應ありたり尚ほ陪賓として山縣政務總監、上泉司令官、兒玉局長、中山大佐列席したり

●上田司令官の招待

上田軍司令官には十四日午後六時より龍山の新官邸に寺內總督、山縣政務總監各部局長官を招待し晩餐の饗應ある由

●民團收税成績

京城民團九月中の收税は二萬三千七百二圓にて四月より九月迄の收税は十萬四百二十八圓然して本年度中の徵税額中九月末日未納額は七万九百六十五圓なり

●天長節と朝鮮貴族

李完用伯、趙重應子朴齊純子は朝鮮貴族を代表して來る十一月三日の天長節を祝する爲めに來る十五日當地出發東上する由

●東朝紙又々押收

八日發行の東京朝日新聞は又々朝鮮內に於て發賣頒布を禁止せられたり

●記者團の送別會

京城記者團にては十日午後五時より花月に於て朝日新聞特派員岡野荒木兩氏の送迎會を開けり出席者二十余名釜岸本社長の送迎の辭岡野、荒木兩氏の謝辭釋尾旭邦氏の別辭其他諸紳の余興ありて午後十時散會近來の盛會なりき

●春秋會の例會

春秋會にては岡野告天子十三日朝出發歸坂に就き十一日午後四時より賣六庵に於て同氏の送別を兼ね例會を開けり

●日鮮人の土地賣買

京城民團內に於て九月中に日鮮人の賣買したる土地は左の如し

鮮人買 日人買價額
△宅地七千四百二十一坪 七萬七千八百二十一圓
△畑地六千七百十九坪 六千八百八十六圓
日人買 鮮人買
△宅地二千二百六坪 一萬七千廿六圓

●群山通信

十月九日發 愛水生

○前便申上候事は之れ群山港米界の狀況に有之候處翻つて經濟界の狀勢を見れば輸出界は目下地方在米拂底の爲め依然不振を極め九月中の輸出額の如き僅かに二万三千圓臺に過ぎざるも目前出穀期を控へ居ることゝて市場何となく活氣滿ち白旗不動兵營部の觀有之候

○之に反して輸入界は時恰も鮮人の盆季節及一段冬物仕入時期に際し居候事とて九月中の輸入額は二十七萬（税關統計によれば）と云ふ前代未聞の巨額に上り候

○就中三南線工事用土管及材木の大輸入は時ならず埠頭を賑はし到る處累々然として山の如く積上られたる光景は埠頭近來の壯觀に有之候此種の工事用品は今後富港附近一帶工事の進捗を伴ひ續々輸入せらるべく候

○要するに當地方は曾て報道せし諸原因及今秋の米作は豐穰なりとの見込つきたれば一般の人氣引立ち特に地方の景氣最も宜しき爲輸入に斯くは大激增を示せしものに候又一面には確かに當地方の着々發展しつゝある兆候に有之候、他は後便可申上候 不盡

●咸南農事品評會

咸鏡南道甲山郡にては十三日より三日間農產物品評會を開き又別に農事奬勵の爲め農事講話會種苗農具共同購入種子交換會等を催す由なり

●江原道米價暴落

江原道江陵郡地方の米價は前頃一升二十一錢迄で騰貴したるも新米出廻りたる爲め昨今は一升九錢五厘又は十錢八厘に暴落したり又同地方の生牛は春頃平均四十圓なりしも三十圓に下落したり

●外交時報の發展

大阪毎日東京日々兩社にあつて重要の地位を占め且健筆を以て名高き大庭景秋氏は今回早稲田大學發行有賀博士監修の外交時報社を讓受け專心同社の經營と發展に盡す事となりしに付大阪毎日社を辭されしが今後の外交時報は熱心なる氏の努力によつて一層其面目を發揮することなるべし

●杉田氏と特許辨理士

元統監府特許局審判官たり同局草創に與つて多大の功勞あり併合後中央政府特許局に復職せし杉田金之助氏は去八月審判官を辭し特許辨理士兼辨護士となり法律及特許事務に從事す目下工業所有權法規の智識普及せざる爲特許權者が裁判所に訴追するも往々判檢事の容るゝ所とならず折角法典の與へし救濟を受る能はざる時に當り氏の如き學識經驗兼備の擁護者を得たるは洵に喜ふ可し氏が早稲田大學卒業後判事となりしも辭して米國に留學ミチガン大學エール大學大學院を卒業歸朝後東京地方裁判所判事早稲田大學講師となり後轉じて特許局審判官として在職九年に及び閱歷に徵し其手腕の拔群なるをトするに足るなり

高麗古都雜觀（二）

附紅蔘の未來

スイロー生

富家技師の厚意に因り標本室に入つて一々說明を聞いた、其中最も記者の注意を惹いたのは、滿洲、朝鮮、會津、米國等各地產水蔘の標本だが、如何に素人目にも朝鮮產が最優等品として見わたので今更の如く嬉しく且つ心強く感じた。富井技師曰く、滿洲產や其質に於て其量に於て到底朝鮮の敵に非ず會津產や素之れ白蔘として清國に入るもの、我紅蔘とは需要の向を異にす、獨り米國蔘に就いては其量の多きと其米人の賣上手なる點に於て聊か我注意に値ひすと、夫れ或は然らん。何は兎もあれ我紅蔘が他の諸蔘に比して最優等なることは事實で、而かも需要者の清國人が高麗蔘なる名に對し價を吝まざることは事實だ、只だ憂ふ、紅蔘の不幸所謂官業の弊にして紅蔘商賈を支配するに於ては、ソレコソ有害のバクテリヤが水蔘に喰付たと同じだ、何はともあれ明治四十八年度に至れば紅蔘の叢額は四萬二千斤に達し、賣下げ金額は三百四十萬圓に達すべしとの事、サテソウなつた曉には總督府にとつて之れ好箇の財源、決して輕視すべき代物ではない。序に言ふ、現在の水蔘賣收價格と紅蔘賣下げ價格とを比較すればあまりに開きがあるように思はれてならぬ、當局たるもの官業の弊に陷らざらんと欲せば、須らく此開きを少なくせんことに勉むべしだ。

甚だ書後れ〳〵が、記者等は蔘政局に於て上林專賣局長に會した、で人蔘に就てで許りでなく、他の專賣問題に就ても意見を聞はした、局長曰く他の專賣に就ては予之れを知らず、而かも紅蔘に就ては、予に確信あり、諸君憲を安んじて可なりと。

日將さに暮れなんとす、記者は此行の團長橫尾時事君に從ひ、午後五時と云ふに蔘政局を辭し車を驅り、勞を謝すべく開和旅館に著いた。隣室に賓客あり、名を問へば檜垣京畿道長官、君の來れるは恩賜授產場の卒業式へ臨場する爲めであつた。

●津輕乘組員の入京

練習艦津輕は既記の如く昨十日午后二時仁川に入港したるが同乘組將校三十名並に練習生七十名下士卒二百余名は今十一日午前九時南大門驛着入京午後四時發歸艦せり

●秋山參事官の歸朝

過般來東京にて總督府法令整理中なる秋山參事官は本月下旬頃東京出發歸任すべしと

●澤田地方課長視察

澤田地方課長には近々咸鏡南北兩道の地方行政事務視察として出張する由

●松本書記官の視察

松本書記官には內地行政事務視察の爲め約一ヶ月の豫定にて十二日當地發東京、靜岡、愛知、岡山、廣島、山口の各地へ出張すべしと

●牧瀬教授の來京

陸軍教授牧瀬五一郎氏は總督府に囑託を受け教育狀況視察の爲め昨夜入京す

●櫻井小學校生徒の下仁

當民團櫻井小學校生徒及職員百五十名は十日仁川に赴き當時入港中の津輕艦拜觀をなしたる後仁川尋常小學校に於て茶菓の饗應を受け即日歸京す

●京城の初氷

京城測候所の報によれば去八日以來滿州の高氣壓著しく發達して北西の風強く氣温低減して冷氣增進し十日朝ロ高氣壓の一部朝鮮中部に入り込み風力衰へ氣温劇降し最低零度二（華氏三十二度四）を示し草上に初霜を敷き昨年も同日なれども氣温は一度低く又平年に比すれば一日遲し尚同時に蒸發計中に薄氷を結び之を昨年に比すれば實に二十五日早く平年より二十一日早しと

●島重治氏の送別會

既報の如く元朝鮮總督府航路標識管理所長島重治氏の送別會は九日午後七時より仁川倶樂部樓上に於て開催され出席者は倶樂部會員其他官民有志等にて主客併せて四十一名席上岩崎民長の挨拶に次で島氏の答辭あり各々觀を盡し九時半散會す

●印刷業組合親睦會

今回新たに組織されたる京龍印刷業組合は來十五日午後二時より萬千閣に於て親睦會を催す由なるが發起者は日韓印刷會社大和商會京城印刷所等なり

●福日の一萬號祝宴

九州福岡にて發行せる福岡日日新聞は社運日に隆昌となり地方に於ける新聞中確かに一頭角を現はし職給公平九州探題の名に背かざるを以て發行紙數も都會の大新聞と相下らざる程なるが來る二十四日は一萬號に達する祝意を表せんがため同社にては福岡東公園にれいて盛大なる園遊會を催ふす由にて征矢野社長より案內狀を寄せられたり

●故荻田夫人葬儀

總督府書記官荻田悅造氏夫人利子の葬儀は十一日午後四時三十分南山本願寺前院に於て執行されたり會葬者官民の重なるもの及び愛國婦人會員等無慮數百名型の如く僧侶の讀經家族近親の燒香あり五時三十分式を終りたるが遺骨は鄉里に送り同地に埋葬する由今左に夫人の略歷を揭げんに夫人は三重縣飯南郡宮の前村堀內鶴雄氏の長女にして夙に三重縣立高等女學校を卒業し後同地及び橫濱に於て茶の湯琴生花を修め鄉黨中才媛の譽あり四十年十一月兒玉伯の媒酌に依り荻田氏に嫁し同年十二月荻田氏と共に京城に來り能く家政を調理し夫君をして毫も內顧の憂なからしめ一方社交界に奔走し四十一年より愛國婦人會協贊委員として同會の爲め貢獻するところ鮮なからず享年二十有三一男一女あり

●光州慈惠醫院長逝去

光州慈惠醫院長秋山虎次郎氏は赤痢病に罹り十日逝去せり

●江原道の乾柿不良

江原道江陵郡は柿の產地にして朝鮮名物の乾柿は毎年五萬七千束內外此價格約八千二百餘圓を產出するが本年も非常に多く實を結びたるも成熟期に降雨多かりし爲め三四割腐敗したり

公人私人

▲牧瀬五一郎（總督府囑託） 十日京城ホテル
▲宇佐美勝夫（內務部長官） 十日歸任
▲內田竹三郎（瀬戶實業會々長） 十一日上
▲三浦直次郎（木浦模範場技師） 十日平壤行
▲高宮長恆（技師） 十日水原行

▲京龍兩驛の貨客

▲南大門驛乘降客（十日分） 乘車客 九〇九 降車客 八二八
乘車賃金 二三一五、二〇〇
▲南大門驛貨物發着高（十日分） 三二八 三一八
[illegible] 九三二、七〇
▲龍山驛乘降客（十日分） 二四〇 一八九
[illegible] 二二九、三七〇
▲[illegible]（十日分） 四噸 二五噸
[illegible] 五一一、三〇〇

●株式電報（明治町西村支店着 南山町曾原商店着）

十一月限 十一月九日 前場 後場

▲宇治 寄附 引 ▲丸電 寄附 引 ▲水電 寄附 引 ▲[illegible] 寄附 引 ▲電鐵 寄附 引 ▲京阪 寄附 引 ▲鐘紡 寄附 引 ▲大阪 寄附 引 ▲電燈 寄附 引 ▲日本 寄附 引 ▲郵船 寄附 引 ▲東京 寄附 引 ▲株式 寄附 引 ▲大阪株式 寄附 引

[illegible]

▲現株之部出來不申

●仁川米豆取引所

●前場 十月限十三圓六十八錢▲止出來不申▲十一月限寄付十一圓四十二錢▲止十二錢▲十二月限寄付十一圓十一錢▲最高十四錢▲最低十錢▲十三錢
●後場 十月限寄付十三圓七十錢▲止出來不申▲十一月十一圓四十五錢▲止四十七錢▲十二月限寄付十一圓十五錢▲最高十八錢▲最低十五錢

●大坂期米電報

●前場 十月限寄付不申▲止十七圓八十六錢▲十一月限寄付十六圓九錢▲止十六圓二錢●後場 十月限寄付不申▲止十七圓八十五錢▲止出來不申▲十二月限寄付十六圓[illegible]

▲京城手形交換高▼

十月十一日 金高 一五〇、九七九、一五〇 枚數 六三二

▲茶袋▼

本日の東電によると、陸軍側も海軍側の擴張案に負けてはならぬと、愈々朝鮮常設師團費七年計畫案を提出することに決したらしい△新政府が陸海軍の要求を採用せんか、財政上にどんな按排を試みるか、又之を拒斥する事にすれば如何にして陸海軍側を鎮撫するか、新政府の試金石たるは云ふまでもなく、山本海相のシッカりせねばならぬ所だ△帝國海員救濟會にては、海員養成事業の完全を期する一策として、英國及び露國黒海沿岸に於ける少年水兵隊其他獨佛にやつてをる少年水兵養成事業に倣ひ、孤兒や貧民の子弟を收容し一個の少年水兵隊組織計畫を立てゝ內務省に內交涉に及んだ、思ひ付や實に宜し、內務省でも無論贊成して從來の同會補助金額を增額すことであらう△此程某新聞で業々敷吹聽せられた、米國が滿州に廣大な租借地を得んが爲に支那政府に申込んだと云ふ事は、一部米人間に其應主張したものがあつたと云ふ事に過ぎないので、全然の虚報であつた△聞けば現內閣の親米外交方針に邪魔を入れんが爲に或策士連が、此麼虚報を實しやかに傳へたのであつたとか、サリトは余りに小刀細工が過ぎる△三井の如き大富豪が朝鮮で林業經營をやることになつたのは、眞に半島の一大福音である△常に三井の向ふを張つてをる岩崎家でも三井に負けずに半島に大きな仕事を始めてもらいたいものだ。



チャンピオン傳(四)

司法部書記官刑事課長

草場林五郎君

君は元京城控訴院檢事として舊韓國政府時代聘に應じて渡鮮されたのである、檢事と云へば婦人から見ると鬼よりも蛇よりも恐ろしい役人であるから定めし眞丸顔も言葉なぞも恐ろしく嚴めしいゴツゴツーた方であらうと思ふ人があれば夫れは大間違ひで誠にニコニコと他交際の好い言の云ひ方も穏かに柔しいものだ、尤も公判廷に立てば此れは又別人の如く嚴粛なる態度を持せらるゝことは勿論である、昨年の何月であつたか現の松寺京城地方裁判所檢事正の跡を襲ふて司法部書記官となり刑事課長の要職に就かれたのだ、君は何の方面のチャンピオンとして推撰の榮を荷はれたのであらうか法官の法官らしきは役人の役人らしきと同様當然の事だ、チャンピオン子の君を推擧したる所以豈に其様に平凡ならんやだ、と計り言つて威張つて斗り居ても埒が開くまい、一言にして云へば**ハシゴ酒のチャンピオン**である、一言にして言はなくても又梯子酒のチャンピオンである、梯子にも段々ある——洒落ぢやない——其の段々ある梯子酒中で君のは最も振つて居るのだ、或人は「何うも自宅のれ膳の上斗りでは氣が濟まぬ例令**蕎麥屋**でも一寸斯う**打止の一本**を飲まねばぢやアへエツ、ハイ、ローモ飲んだ如な氣ア仕らねね、ヘエツ、マアラ酔つてるもんか、馬鹿ア言へ、酔つしやア居ねね、馬鹿者奴、控へて居れ、イヤ控へて居ねねでサッサとシ物でもかい、ハイ、へ、ラセ、ヘ、エッ」と云ふのもある、かと思へば又何うも此茶屋も一軒だけでは飲んだ如でねね、と次から次へと飲み歩行いて**眼が覺め**ると**側に美しい女が寢て居る**のに吃驚「モウ酒は呑さない、實に僕の酒は酒、呑まれるんだからなア、禁酒々々、エ、ト昨夜はと、彼家へ行つて夫れから彼家へ行つたがと……エ、ト……サア夫れから跡が一切夢中だ……ア、殘念、苟も男子が酒に性根を奪はれて知らない間に斯る所に寢て居るとは……思へば涙が出る、本日限り斷然禁酒だ」とツツと眼を瞬く、と眼を覺した女が「貴方」泣して被仕の何うゝすつて……」と來る「イヤ泣きやアせん僕も男子だ、一寸眼から水が出た丈だ、眼の洪水だ、泣くもんか嚢ッ、酒、酒、酒を持つて來い」なんてのもあるが君のは左様のでは無い、宴會か何かで花月へでも行く、宴果て後一同と共に退散した君は二十分と經たぬ間に**又其家の玄關**に現はれる「オイ戻つて來た酒だよ」と座り込むで舞の無い事を云つて一時間も飲んで居るかと思ふと「歸る」と云つて立ち出たかと思ふと**又二十分經たぬ間**に「オイ戻つたぞ酒だよ」と少なくとも**繰り返す**こと**三遍から五遍に及ぶ**、故を以て人の悪い仲居や藝妓輩は君に奉るに**角兵衛さんの尊稱**を奉つて居る、但し引つ繰り返つて來るとの隱語である(終)

●君江再勤の内幕

▽北内君の躍起運動

當地第一流の料理店と斷るさへ野暮と笑はるゝ音に聞えた花月樓に君江と申す愛嬌者の君手に似合はず腕力精力共に人並勝れたる藝妓ありし事は茶屋酒の一杯も飲みたらん程の方は先刻御承知の事なるべし然るに此名花一輪本年六月以來花月の樓上に其嬋娟艶姿を見せずなると同時に旭町附近にて其丸髷姿を見せ知る人に逢へば相變らず町嘩に「此上の方に居ますからチト御遊びに入來しやい」と町の名も番地も云はずに只遊びに來いとのみ申して「御免」と云ふかと思へば其姿は掻き消す如く消ね失せて跡には只松風の音斗りと云ふ始末と聞いた三面子が探つて見ると本町一丁目和洋紙及諸帳簿類販賣商諸官衙用達北内商店の主人公の圍者と判明したので一安心した今日此頃中券番の手を經て廣島市比治町七十六番戸士族八島梅子(二〇)が君江と名乗つて花月樓より左褄取つて出るべしと聞いて見れば棄ても置けず又候探つて見るとコハいかにコワ如何に此れが即ち元の君江の返咲と判明したが今度は安心して居られず何うした事情かと又々探つて見ると北内君申すも愧かしい程の經濟家にて必要ありから落籍したのだと斗りで酷き使ふので大抵な者には負けない君江も身體が續かず據なく國元に事情を愬へしより實母病氣と云ひ拵ねて兄が迎ひに來て伴れ歸つたり北内君今更の如く掌の中の玉を取られし心地し商用に托言て君江の跡を追ふて郷里に行つて見ると母病氣と詐にて金子三百五十圓程必要なるよし東京新橋から藝妓に出すのだと聞いた北内君其三百圓は俺が出して追ると即金百五圓丈けを渡し無理に君江を伴れ戻り殘金は毎月十圓宛の月賦と申渡せしに君江の國元で承知せず是非に即金入用と申來りしに豫て思ひの君江は獨斷専行花月に直接談判を開始したり花月にては豫て同人の腕を知れるものから三百圓は四百圓にても出すべしと云ふ事になつた、一方北内君夫れと聞き知るや夫れでは俺の一分が立たない夫れ程の金に困つたとあつては店の信用に關すると金策中なるが君江の國元では北内君の心を知らず早く〜

●滿日支局長の公判

元滿韓日報京城支局長吉田松太郎(三七)が恐喝取財に因り豫審に付せられし事は既報の如くなるが該事件の犯罪捜査に付ては濟本憲兵特務曹長久松小野永山各刑事極力捜査に従事し紳士紳商被害者八九名なるも紳士紳商の事とて被害の事實を否認せしも獨り民團議員井手三郎氏は犯罪の事實を是認したるよし本年一月の探擧に關して井手氏當撰後に於ての犯罪にて金額は三百圓餘なるが不日公判開廷せらるべしと

●買て直く盗らる

富平郡石串面加亭里五統三戸趙致先は去五日仁川京町一丁目雑貨店鄭順澤方にて白金巾六十尺外二點を代七圓二十錢にて買取り已に代金を支拂ひたる後店員と雑話し居たる内店頭の混雜中何者にか前記の物品を竊取され趙は泣きながら京町交番所に訴出てたるより仁川署の小池刑事が該犯人捜査の結果畓洞十七統九戸朴乃華が同品に該當の品を買取りたるを聞知し仁川府内面新昌洞張致根(三〇)の所爲と判明し十日逮捕目下取調中

●詐欺取財事件

南山町二丁目質屋兼金貸業富田初太郎氏は森安重吉外一人より數百圓詐欺されしとて其筋に告訴提起せしが詳細なる事實は取調進行の差支に付後日報導す可し

●過料二件

本町二丁目漬物商日下部嘉太郎(四〇)は交通妨害として過料金二圓▲本町八丁目五十嵐繁二(十八)は同一圓に即決されたり

●新町高野山別院の三十分(五)

白面子

十月五日午後五時

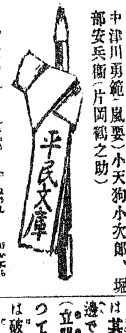
僕が傍若無人……云ふと少々禮を失した申し分に和尚怒るかと思ひの外、俯面勝に目をホショ〜させて「フッー」と首を傾けて居たが「不消化物と云つても御覧の通の粉末ですからナ」と苦しい事を云ふ「如何に粉末でも不消化物は不消化物ですよ」「ソリヤモウ左様です、が併し殺人犯なんて穏かならんですな、要するに量が過ぎたからでしよう」と頗る悄然として御座る、如何にも氣の毒になつたので「何れも砂が病氣に障つた次第ぢやないですよ、砂が其様に恐ろしいものなら朝鮮の下米は食べられませんよ、左様云ふ廻り合せだつたのでしよう」と折れて出ると遽に元氣づいて「左様です全くです、併し**此禰衿をれ着せになつたら全快します**」と和尚は禰衿を額に捧げて又一切り南無遍照金剛を繰返して御佛前に對つて頭を下げて居る和尚の顱を解剖すると此處で**金一封也が白面子の懐中から出ると豫想**して居るのだらうが此方は其術は食はない、宗祖大師や如來の御功徳は今日以後猶且れ願ひ申さねばならぬが夫れは直接れ願ひする敢て此別院の此和尚の仲繼を要しないと失禮かは知らないが腹の裡ではチャンと決めてあるのだから一向平氣だ「全快しましたら**妻がれ禮参**りを致します、何れ**其節**……」其節何をするとも云はない、テンデ露る氣が無いのだから約束の出來ないのも無理は無からう「ハイ……」と云つた和尚の顔、尻コ玉を拔かれた河童の如に餘りの見當違ひに呆れて居るのを尻目に掛けて悠々——と云ふと体裁が好いが實は圖々しく禰衿を受取つて下山の途に就いた、石段へ足を踏み掛けた途端にフト思ひ出しのは此**石段の寄附人が新町遊廓の大桝屋一家**と云ふことゝ又其大桝屋が此れを寄附するに至つた原因である、寄附者北野竹次郎は竹次郎とすみ(女將)との間に生れた娘の名である、其之れを寄附するに至つた**原因は和尚**の頗る**好色漢**とて信者である大桝屋に出入りして居る内に其樓の抱妓の某と云ふのに熱くなり善男善女の喜捨に成る淨財は右から左と注ぎ込む樓中一同近頃好い鴨がかゝつたと寄つて集つて**費消はした額は一千圓以上**、或夜の事店も引けての三時頃内部に差し向つて寢酒を呷つて居た樓主夫婦の耳へ響いたのが大和町は梅の家の邊に當つて素見歸りの若衆が唱ふて歸る小室節「**坊主殺**せば**七代祟る**」さながら銀鈴を振る如な透き徹つた聲で「生れ返つて又祟る」、夫婦はチヨ不元から水を浴せられた如に顏の色を變へた。翌日急に石工を呼んで寄附したのが彼の石段であるのだ。七代祟ると云ふからに特に娘の名迄入れて。(終)

●演藝だより

▲壽座 後藤良介一座十二日の狂言は十一日同様「時雨日記」なりと荒筋は十一日附發行の本紙三面最終に掲載しありと倘從來百五十名限り木戸無料なりしを十二日より全部無料とし更らに六時迄に入場の人には十五錢の割引券を進呈すと

▲浪花館 十二日の番組左の如し の守丁稚(小るん)妾ヶ馬(圓松)太神樂曲藝(福樂)旧樂喰(圓三)戰地滑稽音曲(芝鶴)娘奇術(喜代子)紙屑屋(福圓)音曲くらべ(ジョンベール)

▲御成座 十二日代狂言は「吾妻の春駒觀音丹次」切「義士傳の内堀部安兵衛」にして重なる役割左の如し觀音丹次、村上庄左衛門(市川多之助)荒浪爾六、管野六郎左兵衛(中村駒之助)船頭傳平、奉行池田延太郎(嵐璃松)堀部の娘れしゆん、娘れ花(嵐璃松)あざの重吉、村上助左衛門(桃太郎)中津川勇範(嵐要)小天狗小次郎、堀部安兵衛(片岡鶴之助)



▲九月附背紙の所報に御用紙の京日が金融難に罹つて深水大藏大臣が辭表を出したとあるが一体背紙はアンナ珍種を何所から聞出したのか▲去年十月德富の蘇峯子が陰險な手段を弄して大岡氏を斥け御用紙を乘取つた當時の勢と云ふものは大したもので「京城日報は其筋のもので自分の物ではない、ダカラ金錢上一切の損得は其筋に歸して自分には何等の痛痒も感じない」と揚言した▲是に由つて此れを觀ると御用紙今日の金融難は即ち其筋の金融難であつて蘇峯子に責任は無い譯である▲底事ぞ其筋が管掌せる京日の會計は去九月三十日に又々工場員に對し昂然として一時体給支拂停止を宣言した、之れを聞いた工場員は、讀者諸君驚いたと思ひますか思ひませんか▲實は大に驚いたです、左様して兎に角社長の吉野君に迫つた▲吉野君は好い人である、決して嘘や方便を言ふべく出來て居らぬ周圍に迫つた工場員に向つて「無いものは無へねのだから待つて呉んねね」と云つた、斷つて置くが吉野君名こそ太ゑムだが生粋の江戸ッ見なんだ▲吉野社長の御挨拶に又候驚かされた工場員は下手から出た「御尤でムいます、然らば明日は日曜の事でもムいますから小遣錢丈でも渡して貰ひたい」と哀願的に出掛けた▲定めし「諾つ」と云ふだらうと思つた吉野君は洋服の兩袖をバタ〜云はせて「無い袖は振れねね」▲工場員は斯う云つた「如何に無ねと云つたつて京城日報社ぢやありませんか其位の金錢の無い理由がありませんや」▲スルと吉野君は憮然として「ソラ君達は左様思うだらう併し事實は終に事實なるを如何せんやだ……ウム斯うしよう彼れ是れ云ふよりも念晴しに君等に我社の財政の如何に窮迫せるやをれ眼に掛けよう」と得意然に立ち上つて京城日報社の金庫を開けて工場員立會の上檢査して見せた▲吉野君は江戸ッ見だ淡泊なのは祖先傳來の血の所爲である▲驚いたのは工場員、右金庫の裡に鎭座して居る總額を取調べて見ると御賽錢同樣雜貨取交せ金十圓となにがし、「成る程無い袖は振れない哩」と呆れた▲斯う云ふ始末に立至つた原因はと云へば德富や吉野が深水營業主任の言を納れないでヤレ擴張だ發展だと其筋の金だと思つて浪費した結果だ▲驕る平家久しからず德富蘇峯子今となつては其筋に顔向があるまいと專ら大和町邊で噂してるが小僧君は未だ聞かぬか(立聞生投)▲聞いては居たが豈夫と思つて居た、御用新聞社の俸給支拂停止は破天荒だ、元の伊東社長や大岡社長の時代にはマサカにコンナ破天荒の事は無つたよ(小僧)

●諸公債諸株券現物賣買、迅速確實に御取扱可申候
兼業 既製洋服卸小賣 諸官衙御用達
京城本町三丁目
大阪野村徳七代理店
田中友吉商店 電話九九三 電略(ク)



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番◉千六十八番 振替口座京城十六番



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番千六十八番 振替口座京城十六番

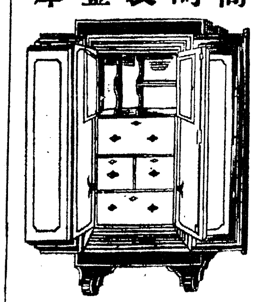
奥様達が
寒くなったと御心配になる
綿類蒲團の準備は如才なく整って居ますから
人は半生寢て暮すのですから
呉服類は慥かに本年は整頓致しました益々
確實に發税品のみを取扱って價格は充分低廉に綿蒲團の御評判に劣らぬ樣に働きます是非共御來店の程願ひます
商品切手發賣 蒲團座蒲團異綿の御使ひ物代用として最も御便利で御座います
地方の御注文は迅速確實に御發送致升
京城明治町一丁目(電話二六一番)
唐川呉服店

御料理
金山寺味噌
製造發賣元 京城南大門通
遠藤商店 電話九八二番

名譽銀牌受領
キリンビール

秋冷相催候處華客樣方には倍御勇健に渉らせられ大慶此事に存候降て弊樓儀開業日尚ほ淺きにも不拘日に増し繁榮に赴き候段偏に御愛顧の賜さも厚く御禮申上候扨て此度内地にて撰抜きの妓供多數新規抱入れ申候間御贔負願度其上東都にて鍛ひし板場を聘し一層新鮮美味なる御料理を特別大勉強可仕候間何卒倍舊御引立の程伏て希上候
仁川港敷島遊廓内
第一敷島樓 電話一六二番

火災盗難保險附
高崎製金庫



特別大割引
大放賣
京城南大門通り三丁目
清韓洋行
電話四九四番
振替口座京城四九四番

元祖
食パン
菓子パンアンパン各種
總督府各官衙御用
陸軍御用
製造御小賣商
京城太平町二丁目
相川兄弟商會(電話一一八九番)
釜山富平町一丁目
相川兄弟商會支店(電話二七六番)

資本金五百萬圓
本店東京市日本橋區呉服町
東京建物株式會社派出所
一土地建物抵當貸附
一月賦償却建物建築
京城旭町二丁目
電話一六八一番

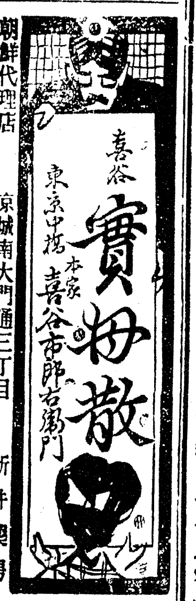
世界一のかぜ藥
全國藥店にあり



蛇印
アンチピリン丸
ねつ・はやりかぜ・づつう
りうかう性かんぼうに大効あり
定價 五錢・十錢・十五錢・廿五錢
發賣元 大阪心齋橋二丁目 丹平商會
本舖 東京日本橋區通旅籠町 丹平商會
代理店 京城 新井藥房 電話九〇四番 一〇六八番 振替口座京城十六番

酒精アルコール
●新荷着
仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ)
坂倉支店

朝鮮代理店

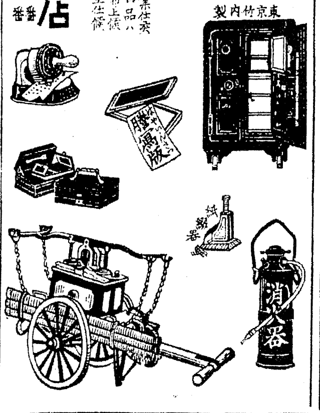


京城南大門通三丁目
新井藥房

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
朝鮮銀行
電話{壹參番 壹貳六〇番 六壹貳番 壹貳六壹番}
支店出張所{大阪、仁川、平壤、元山、大邱、鎮南浦、木浦、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣}
右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

歐米直輸
新建築材料
◎マルソイト便利瓦
◎石綿セメント瓦
◎P&B建築用紙
◎P&Bフェルト
◎P&Bアスファルト
◎吉田木材防腐劑
◎特許自働窓框止
◎建築用金物類
◎壁紙及硝子紙
◎リノリューム敷物
◎亞鉛打拔中心飾
◎鋼鐵打出天井板
京城永樂町二丁目
東京 藤原京城支店(電話一八九番)
工事見積等は懇切に御相談に可應候間御用の節は御一報被下度候

營業科目
東京竹内製金庫
東京堀井謄寫版
喞筒並ニ消火器
手提金匣
器械的文房具
複寫紙及複寫簿
弊店ハ前記各品専門的ニ營業仕候故ニ價格ハ概子内地全樣ナシ物品ハ潤澤ニ取揃ヘ居候間御注文希上候
營業品目録ハ御申越次第送呈仕候



京城本町一丁目
熊平支店
電話六二四番 振替貯金韓國二二二番

營業項目
牛乳搾收業
家畜飼養繁殖
畜産物賣買
家畜飼糧販賣
種牛種付及貸牛
其他畜産業一切
京城南大門外
荒井牧塲(電話一〇五六番)
江華島
荒井第二牧塲
○牛乳販賣は京龍牛乳一手販賣所へ委託致候間從來通同所へ御用命希上候
○洋牛及朝鮮改良種多々繁殖致候間御買求願上候

建具製造販賣
◎襖材料御賣並ニ襖製造
◎仕入レ建具類及ビ附屬品各種
◎簞笥類各種
建具製造 襖材料卸 商
京城南大門外御成町
三好市太郎
電話五九六番 振替口座京城二九七番

弊館には夜警の設備有り
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水産組合指定旅館
各保險會社指定旅館
御客樣の安全此の上なし
第一なり 好の事き 眺望
仁川海岸
旭屋旅館
電話二五一

M.C.C.
專賣局定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
土耳古紙巻煙草
エムシーシー
京城、平壤龜屋……釜山、木浦、群山高瀨支店

京城旭町一丁目
齋藤歯術所
電話一四一四番

▲營業案内▼
●定期賣買は秘密を嚴守し御差圖次第東京大阪兩市塲何れとも便宜御注文に應ず可く
●現物の賣買は弊店が多年の經驗と特有の技能を以て如何なる銘柄とも極めて丁寧懇切に御取扱ひ可申候間何卒數量の多少に不拘御用命の程希上候
(曾野商報御申越次第進呈可仕候)
各種有價證券問屋
曾野峻輔商店
京城南山町三丁目
電話一四〇九番

本綿、太物
メリヤス
綿、文房具
紙、帳簿類
干物食料品
罐詰、荒物
金物、洋傘
日鮮人向雜貨
帝國化粧品研究所
明月あらい粉代理店
御卸商
朝鮮仁川港
小林倉二郎商店
電話三六六番
振替口座京城一九九番

薄口醬油
特約販賣
仁川 京城
高雄支店

土地建物鑛山株券賣買
一擔保及確實なる債權に對し低歩貸金す
一漢江上流に在る赤松長五六間のもの二十萬本余賣物あり
一市内適當の場所にて印刷業老舖機械附屬品全部讓り物あり
一京釜線太田驛附近の田畓(三四里以内の處)
一京仁線以西の田畓
右買たし賣物あらば至急申込まれたし
一最良好の金銀銅鑛明礬山石綿山賣物あり
小林藤商店
京城明治町三丁目
電話六五五番

勿驚破格大勉強
特製
寶味噌
御料理向
味噌製造漬物問屋
仁川本町三丁目
たからや
電話七三七番

釀造元
仁川萬石町
高杉醬油釀造所
電話七六五番
最上醬油

公州芙江
定期出帆
芙江發毎日後一時四十分公州着後六時
公州發毎日前七時芙江着後四時半船内
御客樣の娯樂用として新聞雜誌碁將棋
盤等の備付あり
京釜芙江驛前 中條運送芙江支店

安來丸 天草丸 成歡丸 海利丸 成歡丸
十月中滊船出帆廣告
安來丸 屯串行 十月十二日前九時
天草丸 海州行 十月十二日後五時
成歡丸 喬島行 十月十二日前九時
海利丸 海州行 十月十日前 時
成歡丸 大湖芝行 十月 日前 時
合資會社 仁川本町四丁目 電話一七三番 七七〇
秋田商會船舶部